

魅力満載！暮らしやすさのトップランナー

青森ねぶた

毎年延べ300万人以上の観客が訪れる、日本を代表する火祭りのひとつ。20数台の極彩色の人形ねぶたと、「ラッセラー」の掛け声とともに乱舞する跳人、囃子方が一体となって繰り広げ祭りを盛り上げます。

奥入瀬溪流

十和田湖子ノ口から流れ出て約14km下流の焼山へと続く奥入瀬溪流。ほとぼしる滝が点在する“瀑布街道”や魚の遡上をも阻む銚子大滝、苔むす岩の阿修羅の流れなど、手つかずの自然の躍動美が待っています。



津軽三味線と肴

パチを叩きつけるように弾く独特の奏法でありながら、細やかな表現がなされる津軽三味線。心に響く迫力の生演奏を聴きながら、その土地でしか味わえない料理を堪能できる、弘前にはそんな店があります。



華想い

青森県の誇る酒米「華想い」は、全国的に有名な「山田錦」に、青森県産の「華吹雪」を掛け合わせて開発されました。この「華想い」を使用し、青森県の純粋な水で仕込まれた吟醸酒「華想い」は、優雅な香りと米の旨みが楽しめる逸品です。



根曲がり竹(タケノコ)

春に県内各地で採れる「根曲がり竹」は普通のタケノコよりも小さく、柔らかな食感が特徴です。煮物や天ぷらのほか、採りたてをそのまま焼いて味噌をつけて食べれば、季節を感じられる美味しさです。



古牧温泉

青森の水と緑をイメージした露天風呂「浮湯」。地下約1,000mから湧き出るお湯は、石鹸水のように“とろとろ”の泉質。青森ねぶたの展示や郷土料理のレストランなど、青森の文化も味わえます。



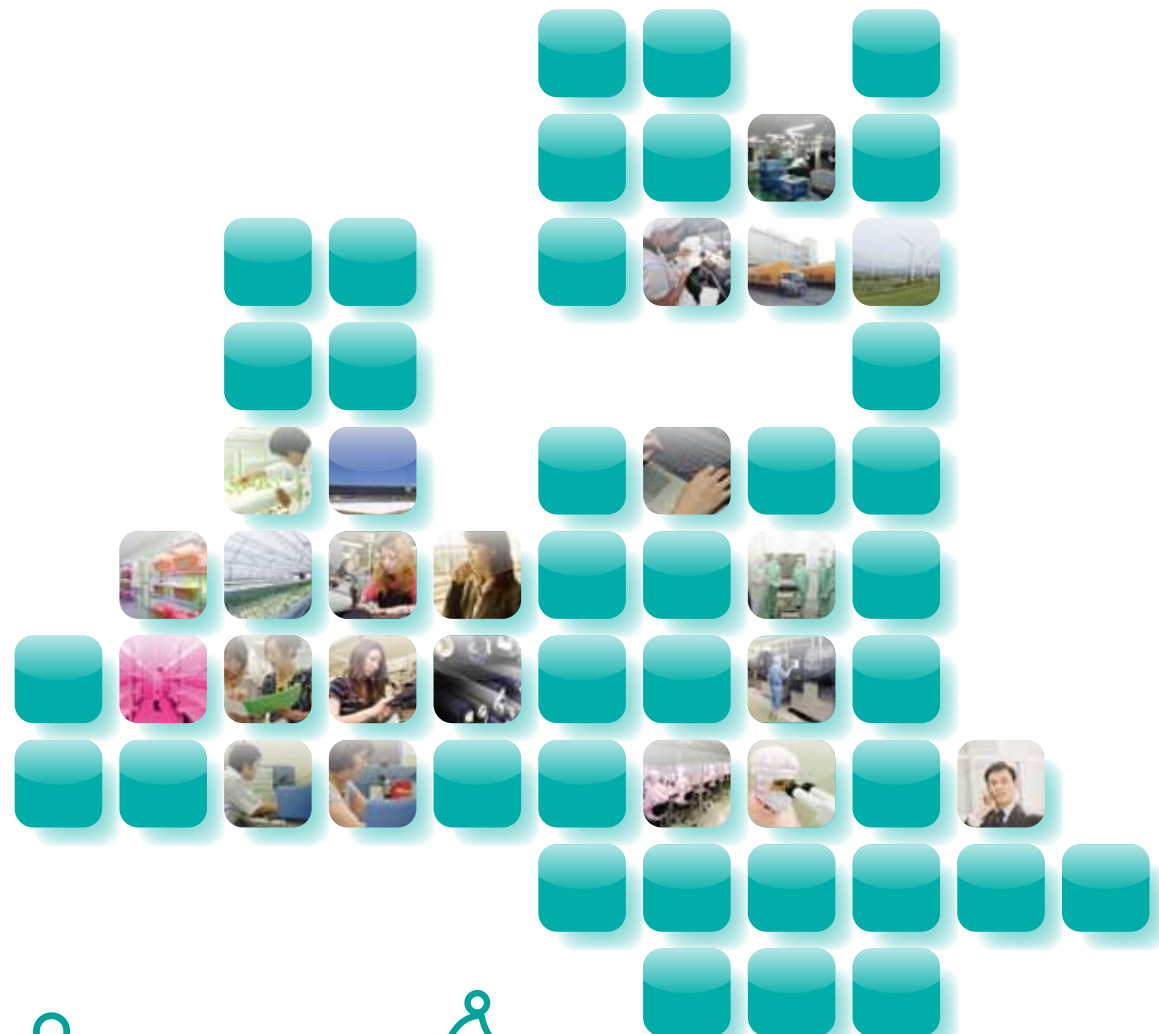
八戸三社大祭

約290年の歴史と伝統を誇る八戸地域最大の祭り。平成16年に国の重要無形民俗文化財に指定され、現在は神話・歌舞伎などを題材とした豪華絢爛は27台もの山車が八戸市の中心部を華やかに練り歩きます。



蕎麦

県内で広く栽培されている蕎麦には、地域毎に根付いた様々な蕎麦があります。県推奨となっている美味しいと評判の品種の階上早生(そば)、つなぎに大豆のすりつぶした呉汁を使う津軽そば、特産品のりんごや自然薯を使った変わり蕎麦などもあります。



企業立地のご相談・お問合せ

青森県 商工労働部 産業立地推進課

〒030-8570 青森市長島1-1-1
TEL.017-734-9381 FAX.017-734-8109
E-mail:kogyo@pref.aomori.lg.jp

青森県 東京事務所 産業立地推進課

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 住友生命八重洲ビル5階
TEL.03-3271-0707 FAX.03-3271-0708
E-mail:A-TOKYO@pref.aomori.lg.jp

青森県 名古屋産業立地センター

〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中ビル8階
TEL.052-259-7688 FAX.052-259-7805
E-mail:a-nagoya@pref.aomori.lg.jp

青森県 大阪情報センター

〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階
TEL.06-6341-2184 FAX.06-6341-7979
E-mail:a-osaka@pref.aomori.lg.jp

青森県 福岡情報センター

〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-34 住友生命福岡ビル1階みちのく夢プラザ
TEL.092-736-1129 FAX.092-716-2037
E-mail:a-fukuoka@pref.aomori.lg.jp

「青森県産業立地ガイド」ホームページ

青森 産業立地
<http://aomori-ritti-guide.jp>



日本のものづくりは、
地方の人材を活かせば
もっと元気になります。

代表取締役社長
森本 尚孝さん

いま、津軽地域は、
日本のオーダースーツ生産に
欠かせない場所です。

センチュリーグループは、イージーオーダーをメインとする紳士服メーカーです。特に採寸から型紙作成、生地のカットまでをコンピュータシステムで世界で初めて自動化したことで、業界のリーディングカンパニーとなりました。センチュリーテクノコアはその生産部門の会社で、縫製工場を2つもっていますが、なかでもこの弘前工場が当社の全生産の4分の3(年間約8万着)を担っています。



またここにはコールセンター機能もあり、北海道から沖縄まで全国約800の店舗から直接オーダーを受けています(グループ販売員派遣店約200店舗、他社アパレルメーカー約600店舗)。そしてできあがった商品も各地の店頭まで直接配送しています。つまり物流管理までできているので、スピーディな対応とコスト削減に大きく貢献しているといえますね。

青森出身の私ですが、
青森の人材力に驚き、
うれしくなりました。

センチュリーテクノコアの創業はバブルの頃です。スーツもたくさん売れていて、生産工場が足りなくなったんです。好景気で用地も人も足りない状況のもと、北東北に可能性を求め、私自身の出身地である弘前市に建てることにしました。

ここに工場を作ってみて、人材の質が非常に高いと実感しています。意欲をもって真面目に取り組む方がたくさんいる。新卒でも、就職を見据えた教育をキチンとしている高校から採用し

た方は、「働く」ということに対して意識が高いと感じます。定着率も高いですね。ここ3年でも採用した20人のうち辞められた方は3人です。



グローバル化で製造業のほとんどが、低賃金の労働力を求めて海外に工場をつくる傾向ですが、私どもはむしろ国内にこだわっています。北東北なら、比較的低い賃金で人材確保できるうえに、真面目で優秀な方が多い。そもそもオーダーメイドのスーツをつくるためのきめ細かなノウハウは、安易に外に出したくないんです。

そういう意味では技能を身につけてくれた社員は会社の財産です。女性が多い職場ですが、結婚・出産・育児をしても安心して長く勤めてもらえるよう環境は整えています。実際に5年で3人のお子さんを産んだ方もいるんですよ。また、青森県は兼業農家の方も結構いらっしゃいますが、基本的に土日が休みなので、折り合いをつけながら勤められると思います。



ものづくりの現場を
日本に取り戻したい。
そんな夢も持っています。

私は、青森県にもっとアパレル関係の企業が
進出して来てほしいと思っています。というのも県内には優秀な縫製工場が多く、その関連

周辺企業までがたくさん集まれば「ファッションの集積地」になれるのではないかと期待しているんです。それに弘前市では全国で唯一の「ファッション甲子園」が開催されていて、デザイナーを目指す高校生たちが年一回集まっています。せっかくそういう下地があるんですから、青森県の行政にはもう一歩踏み込んで、服づくりに関わる産学官の連携や雇用の創出に力を入れてほしいですね。私も今年、東京からきた若いデザイナーさんと当社の技術者などで情報交換会をしたりして、頑張ってますよ。



ものづくりの現場が海外に出て行ってしまっている現在、人材と工場が揃っているところは少ないはず。行政には、民間にはできないインフラ整備などでもっと支えてほしい気持ちがありますが、それでもここ津軽地域の人材を活かしながら経済の発展に貢献できる、またとない土地だと自負しています。

株式会社センチュリーテクノコア 弘前工場

〒036-8072 青森県弘前市大字清野袋3-8-1
本 社 千葉県印西市高花1-4
会社設立 1989年5月
創業開始 1990年4月
誘致年数 22年
従業員数 361人(弘前工場236人)
事業内容 注文紳士服・婦人服の製造および販売

2012年8月現在



いまやグローバル社会。
技術力があれば、
どこにいても勝負できます。

代表取締役
澤田 均さん

ニッチなフィールドながら
「山椒のように小粒でピリリと辛い」、
そんな存在でありたい。

私どもの青森工場では、半導体製造の後工程として、微細加工をして検査・テストをするという専門的な業務をしています。特に、テストの工程をメインとしているのが特徴で、社名のSTBもセミコンダクタ・テストング・ビジネスの略で、ちゃんと「テスト」という業務名が入っているんですよ。



本社創業は昭和39年。半導体業界では歴史は古い。先代が始めた当初はトランジスタでした。それがICとなりLSIとなり今や超LSI。そういう変化に何とか対応し続けてきたからこそ、いまこうしてやられているのだと思います。実際、大手のメーカー内部にも検査部門はあるので、うちでは大手がやれない部分、面倒な部分を担当することが多く、そういう意味では全国でも数が少ない、ニッチな仕事と言えます。だから確かな技術を基盤に「小粒でもピリリと辛い」山椒のような会社でありたいと、常々考えています。

シリコンバレーに憧れて。
青森の伸び伸びと広い環境が
理想にぴったりでした。

青森工場を作ったのはバブルの時代です。半導体の先進地、アメリカのシリコンバレーにならって、ゆったりと広い土地を求めていました。ただ、関東近県はすでに土地が高いのでどこか地方で、と思っていた矢先、偶然、東京で開催されていた青森県の立地企業セミナーに出会ったんです。青森には縁もゆかりもないんですが、

結局、県の担当者の熱心さに心を打たれたんですね。まあ、学生時代に東北を旅して十和田湖の満天の星空に感動したことがあるので、人からどうして青森に進出したのかと聞かれれば「星がきれいだから」とロマンチックに答えることになってるんですけどね(笑)。

実際に来てみると、三沢空港まで車で15分くらいだし、東京への宅配便も翌日着くし、デメリットは意外と少ない。もちろん冬は寒くて厳しいんですが、初めに現地視察したときに猛吹雪に遭遇したので、それは覚悟の上。むしろ一番厳しいときに来てみてそれでも良いと思えた、ということです。工場は、空港に近く海外からみえるお客様のアクセスの良さも満足しています。



人材についても、熟練を要する作業に皆さんがキチンと対応してくれています。だから会社としても、東京と青森で勤務条件や給与は全く同じにしています。また、若い人には積極的に海外研修も行かせています。このグローバル社会においては、日本という小さい国の中で、特別に青森だからどうこうというのはナンセンスですからね。

モノづくりの裾野を広げるために、
「中小企業にやさしい青森県」を
推進してもよいのでは。

近年、工場の海外進出の是非が問われることが多いのですが、私はいろいろなリスクを考えると、国内に工場を持つ方がメリットが大きいと思います。

逆に国内の地方の側でも、大企業の誘致だけでなく、中小企業の誘致や助成にも力を入れ

たらよいのではと思っています。というのも、モノづくりは自社だけでは完結せず、必ず周辺事業との関連が出てきます。うちでも現状、機械加工とか部材調達などは関東地区に発注している物も多く、それが県内でできればいいのといつも思いますね。産業は中小企業が集積して裾野が広がってこそ根づいていくもの。そのためには、青森県内の中小企業にもっと助成してもいいし、東京の中小企業を誘致してきてもいい。私の知ってる範囲でも東京で地方進出を窺っているところが実は結構あるんですよ。我が社においても半導体加工技術を核とした新産業事業をこの地で発展させたいと思っていますが、県としても「中小企業にやさしい青森県」というアピールをしたら、他県と較べても斬新で画期的だと思いますよ。



サワダSTB株式会社青森工場

〒033-0073 青森県上北郡六戸町金矢1-7金矢団地内

本 社 東京都青梅市二俣尾3-841-1
会社設立 1964年7月
創業開始 1991年3月
誘致年数 21年
従業員数 90人(青森工場40人)
事業内容 テストプログラム開発、設計、企画
テストフィクスチャ機器開発
半導体(IC、LSI)製造検査、テストング、
ダイシング、バックグラインド他

2012年11月現在